



○サテライトトカマク (JT-60SA) 製作の進展

日欧ホームチーム及びサテライトトカマク事業チームで開催している技術調整会議の第6回会合 (TCM-6) が9月16日-18日にスペインで開かれた (図1)。本会合では、主要機器の詳細設計について議論した。なお、次回会合 (TCM-7) は12月に那珂で開催予定である。また、9月25日に開催されたプロジェクト委員会設計レビュー会合では、ダイバータの設計についてJETの遠隔保守専門家他による設計レビューを受け、遠隔保守対応のダイバータ設計とR&Dが順調に進捗していることが評価された。更にこれを受け、10月19日に第5回事業委員会 (PC-5) がTV会議で開催された。ダイバータ日本分調達の現状が報告され、計画通りの進捗であることが承認されるとともに、JT-60SA 研究計画策定の現状が報告された。また、欧州調達分機器の調達取決め (PA) は順調に進捗しており、12月4

日付でクエンチ保護回路、12月7日付でクライオスタットベースの調印が完了し、今後、高温超伝導電流リード、トロイダル磁場コイル、トロイダル磁場コイル電源、ポロイダル磁場コイル電源、高速位置制御コイル電源のPAに調印する予定である。

日本が分担する調達については、引き続き各機器の製作を進めるとともに、真空容器組立棟の建設及び真空容器トラス部の残部などの契約が整った。前回報告 (本誌10月号) からの主な進展としては、真空容器20度分の試作について、インボード直線部と曲線部との接続が終了し (図2左) し、残る溶接継手試験の結果を踏まえ、12月初めから実機製作を開始した。また、20度モデルのアウトボード試作では、10度セグメントにリブを溶接後、内壁同士を溶接して20度形状にできた (図2右)。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図1 技術調整会議の第6回会合 (TCM-6) の参加者。

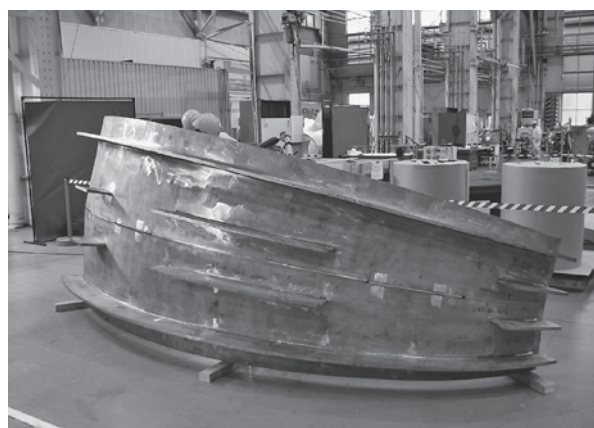


図2 試作した真空容器 20 度上半部のインボード直線部と曲線部の接続(左)、10 度セグメント 2 個を接合した 20 度アウトボード(右)。